令和6年産

（品種：夢つくし・元気つくし ヒノヒカリ・ヒヨクモチ）

ふくおか嘉穂米稲作ごよみ

JAふくおか嘉穂本所営農センター ☎24-7093
飯塚普及指導センター ☎23-4154

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!!

生産履歴は必ず記帳しましょう。

山ろく・中山間地

月	5月			6月			7月			8月			9月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
夢つくし		浅水		間断潅水		中干し	間断潅水			浅水	間断潅水		落水		

基肥　代かき　箱施薬①　田植（5/15～5/30）　除草剤②　穂肥　防除時期③ 穂いもち病　出穂　ウンカ・カメムシ防除④（状況に応じて2回散布）　収穫

平坦地

月	6月			7月			8月			9月			10月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
夢つくし	浅水		間断潅水	中干し	間断潅水		浅水		間断潅水	落水					
元気つくし		浅水		間断潅水		中干し	間断潅水		浅水	間断潅水		落水			
ヒノヒカリ		浅水		間断潅水		中干し	間断潅水		浅水	間断潅水		落水			
ヒヨクモチ		浅水		間断潅水		中干し	間断潅水		浅水	間断潅水		落水			

夢つくし：基肥　代かき　箱施薬①　田植（6/5～6/15）　除草剤②　穂肥　防除時期③ 穂いもち病　出穂　ウンカ・カメムシ防除④（状況に応じて2回散布）　収穫

元気つくし：基肥　代かき　箱施薬①　田植（6/10～6/20）　除草剤②　穂肥　防除時期③ 穂いもち病　出穂　ウンカ・カメムシ防除④（状況に応じて2回散布）　収穫

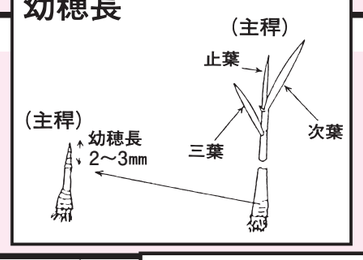
ヒノヒカリ：基肥　代かき　箱施薬①　田植（6/10～6/20）　除草剤②　穂肥　防除時期③ 穂いもち病　出穂　ウンカ・カメムシ防除④（状況に応じて2回散布）　収穫

ヒヨクモチ：基肥　代かき　箱施薬①　田植（6/10～6/20）　除草剤②　穂肥　防除時期③ 穂いもち病　出穂　ウンカ・カメムシ防除④（状況に応じて2回散布）　収穫

・穂肥は葉色をみて量を加減する。
・穂肥は出穂前（幼穂長２～３㎜）頃使用する。

穂肥の診断

穂肥時の稲姿と幼穂長



収穫適期（黄褐色籾70～80%）
収穫早限　黄褐色籾比率70%　籾水分28%
収穫晩限　黄褐色籾比率80%　籾水分24%
・適期収穫に努めましょう

注）平坦地は標高50m以下、山ろく地は50～100m、中山間地は100～300mの地帯である。

主な雑草及び病害虫

○箱施薬―①　次のいずれか1つを選択

名　称	使用量	使用時期	対象病害虫
防人箱粒剤	1箱あたり50ｇ	播種時（覆土前）～移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ
フルスロットル箱粒剤 ※紋枯病に効果あり			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、紋枯病
ブーンゼクテラ箱粒剤			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ

※育苗センターの苗（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ）は箱施剤（防人箱粒剤）入りです。
田植前に箱施薬を散布する必要はありません。

○除草剤使用基準―②

種類	名　称	10a当たり使用量	使用時期
粒　剤（※田植同時処理可）	キマリテ１キロ粒剤	1kg	田植時～10日（ノビエ3.0葉期まで）
	エンペラー1キロ粒剤		
	ラオウ１キロ粒剤		田植時～8日（ノビエ2.5葉期まで）
	ビクトリーZ１キロ粒剤		田植時～10日（ノビエ3.0葉期まで）
フロアブル（※田植同時処理可）	キマリテフロアブル	500㎖	田植時～10日（ノビエ3.0葉期まで）
	エンペラーフロアブル		
	ラオウフロアブル		田植時～8日（ノビエ2.5葉期まで）
フロアブル（※田植同時処理不可）	ビクトリーZフロアブル		田植後5日～10日（ノビエ3.0葉期まで）
ジャンボ	キマリテジャンボ	10パック	田植直後～10日（ノビエ3.0葉期まで）
	エンペラージャンボ		
	ラオウジャンボ		田植直後～8日（ノビエ2.5葉期まで）
	ビクトリーZジャンボ		田植後5日～10日（ノビエ3.0葉期まで）

※除草剤処理後1週間は田面が露出しないようにすると効果が安定する。

○穂いもち病防除―③

名　称	10a当たり使用量	使用時期（収穫前）	対象病害虫
ノンブラスバリダ粉剤DL	3～4kg	14日前まで	いもち病、紋枯病
ダブルカットバリダフロアブル	希釈倍率1000倍 散布液量60～200ℓ	穂揃期まで	
ゴウケツ1キロ粒剤	1kg	出穂5日前まで（収穫30日前まで）	いもち病
ゴウケツパック	10パック		

※穂いもち病防除時期：「ゴウケツは、穂ばらみ期（出穂５日前）まで」「液剤・粉剤は出穂直前」に散布する事が重要です。

○ウンカ・カメムシ防除―④

名　称	10a当たり使用量	使用時期	対象病害虫
エクシード粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	カメムシ類 ウンカ類
エクシードフロアブル	希釈倍率2000倍 散布液量60～150ℓ		
スタークル豆つぶ	250g		
ヘリ防除（エクシードフロアブル）	希釈倍率16倍 散布液量0.8ℓ		

イネカメムシ対策

イネカメムシの特徴は出穂期後の幼い籾の基部を吸汁し不稔籾発生の要因となります。その為、対策としては出穂期に1回、出穂期後7～10日に1回の2回防除が必要となります。

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

（生貝の捕殺・卵塊の圧殺、取水口への網設置、浅水管理、厳冬期の耕起等）

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策	名　称	10a当たり使用量	使用時期	備　考
	スクミノン	1～4kg	移植後、但し収穫60日前まで	水口、深いところ等タニシの集まる所にスポット処理も有効

○補正防除

名　称	10a当たり使用量	使用時期	対象病害虫
ゴウケツモンスター 粒剤	3kg	出穂5日前まで（収穫45日前まで）	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、ウンカ類
リンバー粒剤	3～4kg	収穫30日前まで	紋枯病
モンセレンフロアブル	希釈倍率1500倍 散布液量100～150ℓ	収穫21日前まで	紋枯病
トレボン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	ウンカ類対策 ※使用時期は発生に応じて散布（稲作情報参考）
トレボン乳剤	希釈倍率1000～2000倍 散布液量60～150ℓ	収穫14日前まで	

○補正除草剤

	名　称	10a当たり使用量	対象雑草	使用時期
雑草が残った場合	クリンチャーバスME液剤	1000㎖/水70～100ℓ	ノビエ、広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで
	ワイドショット1キロ粒剤	1kg		田植後15日～ノビエ4葉期 但し収穫45日前まで
	クリンチャーEW	100㎖/水25～100ℓ	ノビエ	田植後20日～ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで
	クリンチャー1キロ粒剤	1kg		田植後7日～ノビエ4葉期 但し収穫30日前まで
	2･4-Dアミン塩	80～120g/水70～100ℓ	水田雑草（イネ科を除く）	有効分けつ終止期～幼穂形成期前 但し収穫60日前まで
	バサグラン液剤（ナトリウム塩）	500～700㎖/水70～100ℓ	広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日～55日 但し収穫50日前まで
	バサグラン粒剤（ナトリウム塩）	3～4kg		田植後15日～55日 但し収穫60日前まで
	レブラスジャンボ	10パック	水田雑草及び広葉雑草	田植後14日～ノビエ4葉期まで 但し、収穫60日前まで

○施肥基準

(kg/10a)

地帯	品種名	肥料名	基肥	追肥	成分量 N	成分量 P	成分量 K
全域	夢つくし	ベスト444 ベスト444	35	15	7.0	7.0	7.0
	元気つくし	ベスト444 ワンショット追肥エムコート206	40	15	8.6	5.6	8.0
	ヒノヒカリ	ベスト444 ベスト444	40	15	7.7	7.7	7.7
	ヒヨクモチ	ベスト444 ワンショット追肥エムコート206	50	20	11.0	7.0	10.2

※側条施肥田植機は、「ベスト444」を使う。施肥量は、上記基準より10a当たり5kg程度減らす。

○施肥基準（基肥一回全量施肥）

(kg/10a)

地帯	名称	肥料名	施肥体系	施肥量	成分量 N	成分量 P	成分量 K
全域	夢つくし	Ｊコート2000（100日）	全層	35	7.0	3.5	3.5
			側条	30	6.0	3.0	3.0
	元気つくし	Ｊコート2000（100日）	全層	40	8.0	4.0	4.0
			側条	35	7.0	3.5	3.5
	ヒノヒカリ	Ｊコート2000（100日）	全層	40	8.0	4.0	4.0
			側条	35	7.0	3.5	3.5
	ヒヨクモチ	エムコート44（120日）	全層	45	9.9	5.4	4.5
			側条	40	8.8	4.8	4.0

※気象変動への対応や生育に応じた調整ができないので、倒伏や収量低下を招くことがある。
※この肥料は省力化のために使用する。
※施肥量が多くならないように注意する。
※（　）内は緩効性窒素の溶出期間。

稲わらの全量還元・土壌改良資材の施用（10a当たり、ケイカル・ミネラルG・珪鉄のいずれかを160kg散布、または、とれ太郎を60kg散布）

肥料・農薬の注文は予約購入で経済効果を上げましょう。
農薬は、散布前に必ず農薬ラベルを確認し、散布時には、天候に注意し、他の作物にかからないように散布しましょう。
この栽培暦はJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

1．このこよみは、稲の生育や病害虫の発生状況により多少変わることがありますので、ＪＡ等の情報に注意して下さい。
2．なお、不明な点は、普及指導センター、ＪＡへお尋ね下さい。

JAふくおか嘉穂本所グリーンセンター ☎24-4200
JAふくおか嘉穂南部グリーンセンター ☎57-3915

令和5年11月作成